

〈分析の視点等〉

○耕種農家と畜産農家が連携し、発展するために現状をみる

耕種農家と畜産農家が連携し、両者が安定した経営の維持と発展ができるよう、両者の所在情報を明らかにすることにより、課題対応への資料に活用する。

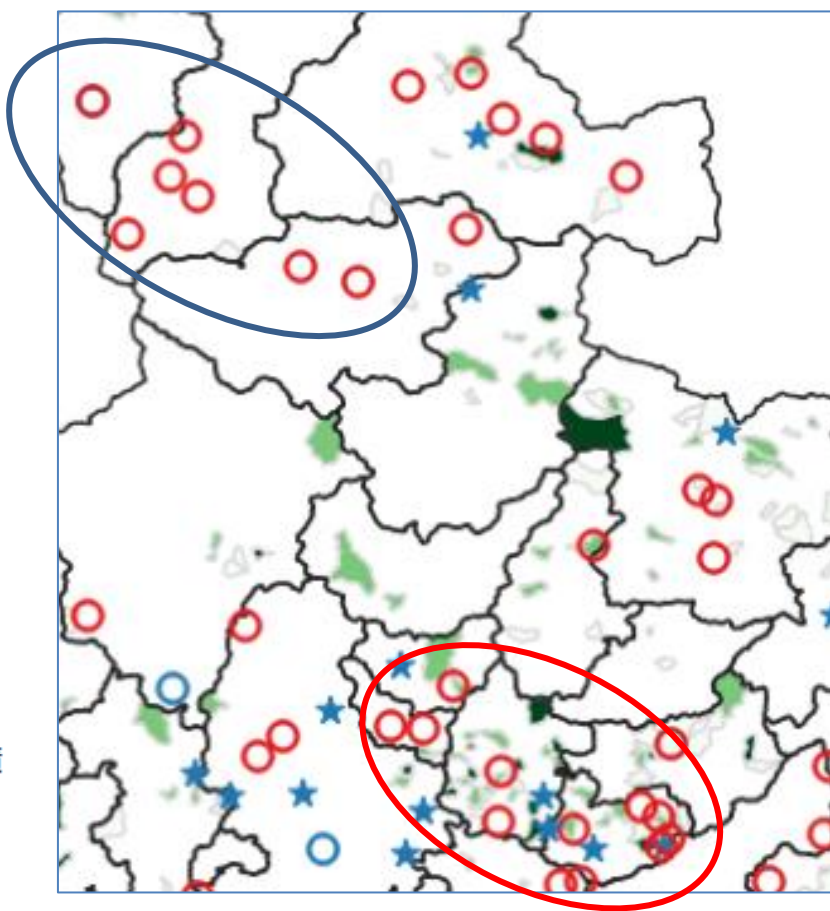
分析事例

赤枠の地域では、耕種農家と畜産農家が集まっており、連携がしやすい。一方で、青枠の地域では、畜産農家が集まっているものの、耕種農家が周辺に存在しないことから連携への課題がみられる。

- 牛_たい肥供給者
- ★ 鶏_たい肥供給者
- 豚_たい肥供給者

販売目的の飼料用稲の作付面積

- 5 ha以上
- 1 - 5
- 1 ha未満



使用したデータ

- ・販売目的の稲・麦・雑穀の作物別作付経営体数と作付面積（2020年）
- ・都道府県別の堆肥供給者リスト掲載先一覧等（出典：農林水産省WEBサイト 畜産環境対策（畜産局畜産振興課））
- ・農業集落境界、市区町村境界

注：販売目的の飼料用稲の作付面積は、「地域の農業を見て・知って・活かすDB」には未掲載の農林業センサスデータです。作成に必要な農林業センサスデータの提供については、お問い合わせ先（農林業センサス統計第2班）までご相談ください。